

財団法人生存科学研究所 第2回銀座ナイトセミナー

医療政策研究会 シンポジウム

院内調査と『事故調』の役割 安全文化構築の契機となる事故調査を求めて

目的；超党派議員立法がついに現実的になるうとしているいま、民主党が第一義とする院内事故調査と大綱案の対比検討を通して、医療安全に資する実現可能な医療事故調査制度のあり方を探る

とき：9月26日（金）午後6時30分～9時

ところ：学士会館 東京都千代田区神田錦町3-28

地下鉄都営三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車A9出口1分、地下鉄「竹橋」駅から徒歩5分

参加無料

本研究会では、「医療事故の対応とその取扱、事故に学ぶ」という問題関心をもって集まり、昨年11月には診療関連死の死因究明第三者機関創設の方向性を指し示すべく、行政官庁のみならず広く医療界に向けて「診療関連死の原因究明から始める医療安全」という政策提言を公にいたしました。さらに第三者機関の創設と運営における医師の自律の重要性を議論するために、この1月には多方面の関係者に呼びかけて『診療関連死とプロフェッショナルオートノミー』をテーマにシンポジウムを開催いたしました。

本年は2年目に当たり、今後、飛躍的にその重要性が増すであろう院内事故調査について議論を重ねているところですが、超党派議員による法案提出が現実的になるうとしているいま、**民主党が第一義的とする院内事故調査と大綱案の対比検討を通して、医療安全に資する実現可能な医療事故調査制度のあり方を探る**ことを意図して、上記のとおりセミナーを開催いたします。

ディスカッションの論点

1. 制度の目的と届出の範囲

- ・目的は紛争防止か真相究明か
- ・届出の範囲は過失事案か、紛争事案か、予期しない重大な結果事案か

2. 院内事故調査と異状死の届出

- ・従来の院内事故調査にあった問題をどう克服するか
- ・院内事故調査+死亡診断書の密室性をどう考えるか

3. 院内調査と第三者機関調査の関係

- ・どちらが、どのような事案で「主」か
- ・「医療水準からの逸脱」論の危うさと警察への届出問題

コーディネーター：秋元秀俊（編集ジャーナリスト）

第1部 パネルセッション

パネラー1 神谷 恵子（弁護士）
医療事故調査のスキーム

パネラー2 鈴木 寛（民主党参議院議員）
医療事故調査制度のあり方—制度設計の要点

パネラー3 前村 聡（日経新聞記者）
これまでの院内事故調査の問題点

第2部 ディスカッション

シンポジスト：

鈴木 寛（民主党参議院議員）

豊田郁子（医療の良心を守る市民の会事務局長・セーフティマネージャー）

矢作直樹（東京大学教授救急医療、モデル事業東京地区代表）

神谷恵子（弁護士）

渡邊清高（国立がんセンター がん対策情報センター医師）

西田 博（東京女子医科大学病院医師・心臓血管外科）

前村 聡（ジャーナリスト・日本経済新聞社）

当日参加も受け付けますが、事前申し込みください。

財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル303

TEL：(03)3563-3518 FAX：(03)3567-3608

seizon@mx1.alpha-web.ne.jp